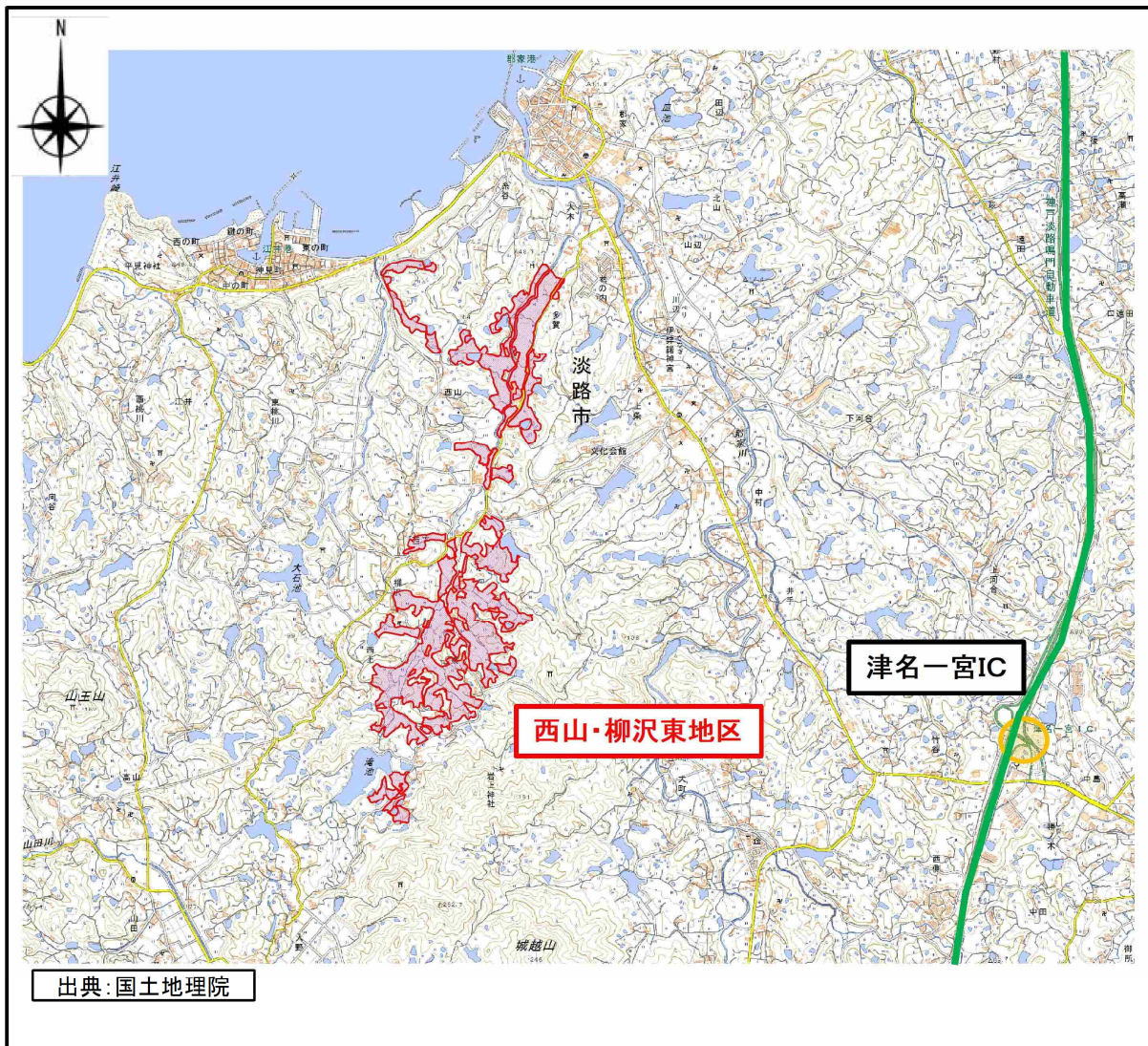


事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 川口義人 (基盤整備班主幹 福永陽介)	内線	4003 (4041)
------	---------------------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着工予定年度	完成予定年度
ほ場整備	農地整備事業	にしやま・やなぎさわがし 西山・柳沢東地区	21.9 億円		令和 3(2021) 年度	令和 11(2029) 年度
事業目的				事業内容		
<p>本地区は、淡路市の南西部に位置し、玉ねぎ等の野菜作が一部行われており、野菜の生産拡大を進めたいが、耕作条件が悪く、取り組みにくい状況にある。</p> <p>ほ場整備により農作業の省力化を図り、野菜の生産拡大を行うとともに、農事組合法人等への農地集積により効率のかつ安定的な農業経営を実現する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 区画整理 53.6ha ・ 事業主体 兵庫県 [負担割合 国 :55.0%、 県 :27.5% 市 :10.0%、 地元: 7.5%] 		
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>本地区は、急傾斜地（主傾斜 1/9）ではほ場の区画が小さく不整形なうえに農道が狭いことから、大型機械化を進めることが困難である。また、地区内の水路は、ほとんどが用排兼用であり、配水管理などの水管理に多大な労力を要している。</p> <p>このような状況の中、農地の保全を図るとともに野菜等の生産拡大を行い、力強い農業経営を展開していくためには、農作業の大型機械化や水管理の省力化を可能とする基盤整備が必要である。</p>					
(2) 有効性・効率性	<p>① 費用便益比 B/C=1.28</p> <p>② 労働時間の短縮による担い手の育成、作物生産の増加</p> <p style="margin-left: 20px;">a) ほ場整備及びこれに伴う農業機械の導入による労働時間の短縮</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 10a 当たりの労働時間 水稻 38hr → 15hr (61%減)</p> <p style="margin-left: 40px;"> 玉ねぎ 174hr → 94hr (46%減)</p> <p style="margin-left: 20px;">b) 担い手の育成</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 担い手への農地集積 4.2ha → 47.4ha (集積率 88%に向上)</p> <p style="margin-left: 20px;">c) 野菜の作付面積・生産量の増加</p> <p style="margin-left: 40px;">・ 玉ねぎ 1.0ha → 10.0ha (10.0 倍増)、年間生産量 478 t 増</p> <p>※その他、費用便益比には含めていない効果もある。</p> <p style="margin-left: 20px;">a) 農地や農村の災害抑制</p> <p style="margin-left: 40px;">水路の用水と排水の分離、法面の緩傾斜による災害発生の抑制効果</p> <p style="margin-left: 20px;">b) 農村の活性化</p> <p style="margin-left: 40px;">若い担い手の定住促進や集落全体で農地を守るなど地域の活性化の効果 等</p>					
(執行環境状況)						
(3) 環境適合性	<p>専門家による現地調査において、地区内に生息する希少種（ドジョウ、ミナミメダカ等）が確認されており、これらの棲息空間を確保するため、工事中は地区外に待避させ、排水路の一部によどみや水路より這い上がれる構造を創設する対策を講じる。</p>					
(4) 優先性	<p>地元集落において野菜増産に取り組む機運が高く、「ひょうご農林水産ビジョン2025」に掲げる第 1 の施策項目「野菜等園芸作物の生産拡大」を先導する優先性の高い地区である。</p>					
【事後評価】						
対象・対象外	<p>本地区と近郊（淡路島内）で実施しているほ場整備（南あわじ市国衙地区）が R8 以降に事後評価をする予定であるため、本地区については事後評価の対象外とする。</p>					

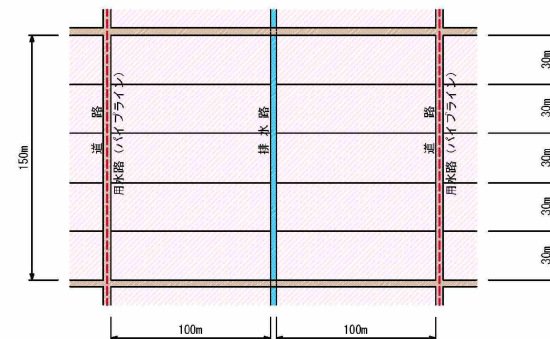
にしやま・やなぎさわひがし
ほ場整備事業 西山・柳沢東地区 位置図



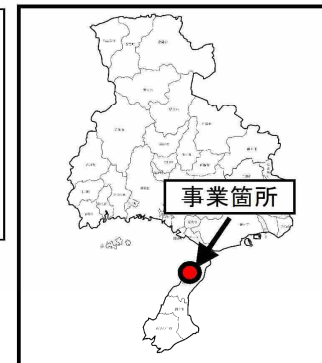
事業概要 : ほ場整備 53.6ha(関係戸数89戸)
 所在地: 淡路市多賀・柳沢
 事業期間 : R3~R11
 総事業費 : 21.9億円
 事業主体 : 県
 費用便益比B/C: 1.28

標準区画割図

30a(100m × 30m)



- 凡例**
- : 事業区域
 - : 高速道路等
 - : 国道
 - : 県道
 - : 公共施設等



平面図



担い手数	個人	1経営体	—
	法人	1法人	2法人
担い手への農地集積 [集積率]		4.2ha [7.6%]	47.4ha [88.4%]
野菜等の生産拡大		たまねぎ、白菜等 1.4ha	たまねぎ、白菜等 17.3ha

①狭小・不整形な区画



②(管理労力のかかる用排兼用水路)



出典：国土地理院

事業の必要性等：

本地区は、急傾斜地(主傾斜1/9)ではほ場の区画が小さく不整形なうえに農道が狭いことから、大型機械化を進めることが困難である。また、地区内の水路は、ほとんどが用排兼用であり、配水管理などの水管理に多大な労力を要している。

このような状況の中、農地の保全を図るとともに野菜等の生産拡大を行い、力強い農業経営を展開していくためには、農作業の大型機械化や水管理の省力化を可能とする基盤整備が必要である。

③排水性の低いほ場



④狭い農道



1 スケジュール

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
実施設計	■	■	■						
区画整理工		■	■	■	■	■	■	■	■
換地									■

凡 例	
	水田
	畑
	非農用地
	暗渠排水
	支線道路
	支線排水路
	県 道
	2級市道
	河 川

1 スケジュール

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
実施設計									
区画整理工									
その他(換地)									

2 事業効果について

(1)費用対効果

① 総便益(B)の項目

事業	B(総便益)	算出方法
ほ場整備	①営農経費節減効果	区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果額を算出
	②作物生産効果	ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果額を算出
	③品質向上効果	本事業の実施により農道の機能が維持され、玉ねぎ等の作物における運搬時の荷痛みが防止されることにより品質が維持される効果額を算出
	④維持管理費節減効果	ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果額を算出(新規整備の場合、施設数が増加することから、マイナス効果となる)
	⑤耕作放棄防止効果	ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果額を算出
	⑥非農用地等創設効果	区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果額を算出
	⑦国産農産物安定供給効果	国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果額を算出(農林水産省によるアンケート調査結果をもとに算定)

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(総便益)		C(総費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費* (百万円)	維持管理費 (百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	①営農経費節減効果	1,552	労働時間の短縮 玉ねぎ 174→94hr/10a	1,860	1,476	384	1.28
		②作物生産効果	625	作付面積の増加 玉ねぎ等26.4ha増				
		③品質向上効果	37	玉ねぎ等の荷傷み防止				
		④維持管理費節減効果	△61	施設整備による管理費増 揚水機0→3箇所				
		⑤耕作放棄防止効果	3	将来発生が予測される耕作放棄を防止				
		⑥非農用地等創設効果	9	県道用地の創出				
		⑦国産農産物安定供給効果	221	国産農産物の安定供給増				
		計	2,386					

注1) 費用便益比算定方法は、「土地改良事業における経済効果の測定方法について」(農林水産省構造改善局長通達)による

注2) 事業費は、当該事業費+事業着手時点の既存施設資産価値-評価期間(49年)終了時点の施設資産価値

注3) 四捨五入により計が合わない場合がある

(2)費用対効果に含まれない主な効果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県土の保全(地下水のかん養、農地・農村における災害の抑制) ・ 農村の活性化 ・ 地域交通の利便性の向上
--

ほ場整備事業の効果

対象地区： 西山・柳沢東地区

(1) 費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
食料の安定供給の確保に関する効果	① 営農経費の節減に関する効果 区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	② 作物の生産増に関する効果 ほ場整備により農業機械導入が可能になることによるや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
	③ 作物の品質向上に関する効果 本事業の実施により農道の機能が維持され、玉ねぎ等の作物における運搬時の荷痛みが防止されることにより品質が維持される効果
	④ 維持管理費の節減に関する効果 ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果
農業の持続的発展に関する効果	⑤ 耕作放棄の防止に関する効果 ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
農村の振興に関する効果	⑥ 非農用地等の創設に関する効果 区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果
その他の効果	⑦ 国産農産物の安定供給に関する効果 国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
多面的機能の発揮に関する効果	① 地下水のかん養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水のかん養を促進する効果	○ 区画整理
	② 農地や農村における災害の抑制 用水路と排水路の分離、法勾配の改善（緩傾斜化）、畦畔の強化、ほ場の湛水量の増などが図られ、洪水の防止・軽減により農地・農業用施設、農村の災害を抑制する効果	○ 区画整理 用排水路整備
農業の持続的発展に関する効果	③ 農村の活性化 農作業の省力化や生産拡大により、農業所得の向上や若い担い手の定着が促進され、農村が活性化する効果	○ 区画整理
農村の振興に関する効果	④ 地域交通の利便性向上 農道の整備により安全に通行でき、また緊急車両の通行が可能となることにより地域の利便性と安全性が向上する効果	○ 農道整備

○印は当該事業効果の主な項目

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で話し合いを重ねてきた計画であり、地域の農地を守るため、また、生活環境を改善するために不可欠な事業であることから、早期の事業実施について市へ強い要望が出されている。 ・農道の拡幅、用水路の管路化及び自動給水システムの導入、排水路の完備等による農作業の効率化及び省力化に大きく期待している。 ・農作業の省力化に伴い農業生産法人に農地の大半を集積し、地区一体で野菜の生産拡大を進めたい。
-------	--